

Rotary Club of Sanuma
2023-2024年度
VOL 60

佐沼ロータリークラブ
2023-2024テーマ

「継続」と「変化」を实践し、
世界を変える行動人となる。

世界に希望を生み出そう

2023-2024年度 国際ロータリーのテーマ

会長 千葉正宏
幹事 布施孝尚
会報 猪股育夫

例会場 ホテルサンシャイン佐沼
☎22-8180 FAX22-0327

例会日 毎週木曜日 12:30~13:30

事務所 ホテルサンシャイン佐沼
☎22-8180 FAX22-0327



第2898回例会 2024. 2. 29 No.29

本日の出席率

・本日の出席率 65.2%

ニコニコボックス

- ・千葉正宏会長 山田正会員の卓話、勉強させていただきました。
 - ・山田正会員 本日のスピーチ、よろしくお願ひ致します。
 - ・江川元徳会員 いろいろな「春」早く来て下さい。
 - ・八谷郁夫会員 山田正会員のスピーチ、又新しい情報を期待しております。
 - ・阿部泰彦会員 山田会員のスピーチ楽しみに！
 - ・高田次雄会員 今年、閏年の2月は、どうにもならないぐらいの寒さ、暖かさの日替り、体調の維持が非常に難しかったところ。春の3月の声と共に皆さんで遊びに仕事に頑張りましょう。本日のスピーチ、山田正会員勉強させて下さい。
 - ・菅原慶一会員 山田正会員のスピーチに期待します。
 - ・二階堂恭子会員 2月最後の日、天気も良く暖かい日、山田正会員のお話楽しみです。
 - ・伊藤秀雄会員 山田正会員スピーチ頑張ってください。
 - ・布施孝尚幹事以下 本日のスピーチに期待して。
佐々木崇会員 佐藤敬喜会員 千葉吉男会員
菅野幸一郎会員 遠藤光則会員 佐々木源悦会員
岩瀬正彦会員 熊谷敏明会員 小野寺伸浩会員
富士原裕子会員 武川毅会員 及川昭宏会員
杉田広仁会員 佐藤早智子会員 及川富男会員
阿部清公会員 關孝会員 志賀昭洋会員
村上正弘会員
- 以上、ありがとうございました。

会長要件 千葉正宏会長

今日は閏年2月29日で、平年なら29日は無いのですが、今年が閏年ですので、29日があります。

例会も、例年の2月なら4回あるいは天皇誕生日に木曜日が当たってれば月3回位なのですが、今年が閏年に加え天皇誕生日に木曜日が当たらずに、月5回の例会となっております。

閏年は西暦を4で割り切れる年が閏年となっております。語源をたどってみますと、諸説ありますが「王様が門の中に入って仕事をしない日」だそうです。たしかに閏という字は門の中に王と書きます。その他にも「金銭・財宝があるさま」という事もあるそうです。「金銭・財宝」ならバンバン入ってきてほしいものです。この閏年ですが、400年間における平均1暦年は、 $365 + 97 / 400 = 365.2425$ 日（365日5時間49分12秒）という観測結果があり、ほぼ4年に一度1日増やせば、暦が合う状態となります。

閏秒というのも最近話の中に出てきますが、閏年とは全く関係ないようで、協定世界時との差を調整するために追加したり、減らしたりしているそうです。閏年は増えるだけですが閏秒は減ることもあるんですね。

長男が1990年生まれですので「閏年」に生まれています。因みに、ウチではコウノトリが3年に一度やってきてくれましたので、子供たちは3歳差ですので、全員閏年生まれとはなりませんでした。

2月29日生まれは誕生日が4年に一度しかないので、みんなより年を取るのが遅いのか？と子供の頃は思っていました。誕生日祝が4年に一度ではかわいそうだなと思っていました。昔は産婆さんが取り上げてくれたので、ほんとうは2月29日生まれでも、3月1日生まれとか、2月28日生まれで届けたこともあるそうです。

再来週には、台北西門RCへ伺って参ります。人は移動距離と同じくらい成長すると言われておりますので、台北西門RCの皆様と友好を深めつつ、自分も成長できるように見聞を広めたいと思います。

幹事報告 布施孝尚幹事

- ・登米市環境市民会議より
2024春の登米市クリーンアップ湖沼群の開催案内
日 時 3月20日(水) 8:30~10:00
会 場 長沼会場（集合場所：長沼フートピア トヨテツ公園駐車場）

今週のスピーチ

「オガールプロジェクト」について 山田正会員
人口減少による事業経営と「オガールプロジェクト」視察についてお話をいたします。

先日の新聞に大型企業の解散が掲載されていました。宮城県においても740件あり、これは人口減少、事業経営、事業者高齢による事業継承の問題があります。コロナ下で0金利の融資の返済や生産面で16歳から65歳の人口減少、後継者不足による事業継承の断念が最大の要因であると言われております。人口減少によって事業を中止するということが起きています。

登米市においても、人口減少のため、年々市への事業負担が増加してきており、現在一人当たり68,400円が7年後には単純計算ではありますが80,000円に増加すると言われております。

◎公民連携モデル地区の視察について

先月の27日、年間96万人の交通人口を迎える「オガールプロジェクト」を実施している岩手県紫波郡紫波町に視察に行ってきました。紫波町は、公民連携モデル地区で視察件数において3年連続1位の実績があります。その日、愛知県職員も視察に来ておりました。紫波町は昭和30年に誕生した町で、人口は33,000人。盛岡市のベッドタウンであると同時に農業のまちでもある。ぶどう、りんごなどの栽培が盛んでフルーツ王国と呼ばれる他、もち米や南部小麦の生産でも知られている。

町としても新駅の誕生を町の活性化につなげたい考えで、駅前に公用・公共施設の集約を図るべく、28.5億円で10.7haの土地を購入したが、予測より人口も税収も伸びず財政悪化が深刻化、土地が10年間塩漬。

閉塞状況を打破るきっかけは、平成18年9月、後に公民連携のキーパーソンとなる岡崎正信さんが東洋大学に入学し、経済学研究科公民連携専攻。卒業後、地域振興整備公園や建設省で地域再生業務に従事し、平成14年に実家の岡崎建設(株)を支えるため紫波町に戻っていた。このことを知った当時の藤原孝町長が「民間の知恵と資金を活用して紫波中央駅前の塩漬け土地を何とか出来ないか」と岡崎さんに打診した。

これが、翌19年4月の町と東洋大学との公民連携に関する協定締結につながった。同年8月には、協定に基づく紫波町PPP（パブリック・プライベート・パートナーシップ）可能性調査の報告がまとめられた。同報告では、30年スパンで未来にわたって人・素材・文化・資金が循環するまちづくりの計画と、それに基づ

いて駅前の開発を進める紫波町PPPプロジェクトを提言。PPPプロジェクト始動にあたっては町民の合意形成を何よりも重視した。特に町民に対しては、2年間をかけて、計100回に及ぶ町民意見交換会を開催した。◎オガールプロジェクトとは。

「オガール」は「成長」を意味する紫波の方言「おがると」、「駅」を意味するフランス語「ガール」を合わせた造語です。コミュニティの力で成長を続ける町づくりの総称。紫波中央駅前整備事業が「オガールプロジェクト」です。

◎オガールのユニークポイント

- ・都市と農村の暮らしを「愉しみ」、環境や景観に配慮したまちづくりを表現する場にする事を理念にしている。
- ・「町民の資産」である町有地を活用して、公民連携方式を用いながら財政負担を最小限に抑え、公共施設整備と民間施設等立地による経済開発を進めている。
- ・「ピンホールマーケティング」により、紫波町やオガールの特色を生かしながら、新しいライフスタイルを提案し続ける。
- ・「オガールエリア・デザインガイドライン」を定め、人と環境に優しい統一感のある景観で、住みよいまちを目指している。

◎専門家によるデザイン会議を立ち上げ、デザインガイドラインを策定

開発の考え方を次の3点に整理

- ①農村（田園）と都市（街）が共生するまち。
- ②若者、高齢者、すべての人が希望を持ち、安心して暮らせるまち。
- ③人にも地球にも「やさしい」まち。

平成21年6月にオガール紫波(株)が設立。オガール紫波(株)の設立と同時に、有識者によるオガール・デザイン会議を立ち上げ、平成22年3月に、オガール地区デザインガイドラインが策定された。

オガールプロジェクトでは、デザインガイドラインを策定し、美しい街並みを積極的にコントロールし、保全していきます。また、紫波町が目指す循環型のまちづくり理念を具現化し、より多くの木質系材料の活用を期待しています。

◎整備方針

- ・統一感のある景観で住みよいまちに。
- ・官と民の敷地がシームレスにつながる。
- ・歩行環境の充実
- ・回遊性、快適性を重視した道路網。
- ・多様な用途に活用できる公共空間。
- ・駐車場をバランスよく配置。
- ・地域材を活用し、地元事業者の施工により経済活動を支援。
- ・公共投資を誘発剤として民間投資を促進。
- ・雇用機会を創出し快適な環境を提供する民間投資を推奨。
- ・設計・コンペで町の特徴を生かした創造的な設計を採用。

— 紙面の都合上、一部割愛させていただきました。詳しくは資料をご参照下さい。